

マルタウグイの 産卵環境づくり

産卵期には、50cmくらいに成長し、
春先の川をさかのぼります。

写真は原寸大

発行・企画：一般社団法人二子玉川エリアマネジメント
編集：NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク
写真提供：橋本竜志(マルタウグイ)・小林直子・中西修一・細田正実・中田慎
イラスト・デザイン：本城晴美
発行年月日：2021(令和3)年3月1日(改訂第2版)



はじめに

二子玉川の水辺が大好きなみなさんへ

もともとは「宝石のような石がある川」を意味する多摩川ですが、50年前には誰も近寄らない、汚染された「死の川」となったこともありました。しかし現在は、人々の川をきれいにする努力が実り、清流にすむとされる鮎やマルタウグイが卵を産むために海から遡上してくる姿が見られるようになりました。

このように、多摩川にはいつの時代も、問題を解決するために自分から行動を起こし、活動を続ける人々がいました。

あなたは、多摩川が好きですか？

そして、未来の多摩川でどんなことをしたいですか？

みなさんのそんな夢や思いをつなげて実現するために、まちづくり団体・二子玉川エリアマネジメンツは、いろいろな人の力を借りながら「二子玉川かわのまちアクション」を行っています。

誰もが多摩川のことをよく知り、二子玉川の水辺を安全に楽しめるように。そんな願いを込めてこの本を作りました。

2021(令和3)年3月

一般社団法人二子玉川エリアマネジメンツ



多摩川(二子玉川エリア)の水辺の環境と生きもの

みんなの住んでるまちを流れる川は、どんなふうで、どんな生きものがいるのかな？



▲世田谷区の南側を流れる多摩川(野川)

みんなのまちの水辺は、みんなの「タカラ」の場所

外来種が多いと話題になっているけれど、「多様性」(いろいろな種類や傾向があり、変化に富むこと)のある水辺にはトンボのヤゴ、小さなエビや、アユやオイカワ、マルタウグイやコイ、フナ類、ウキゴリやヌマチチブなどのハゼ類といったお魚たちなど、いろいろな種類の生きものが生息しています。

二子玉川はかわのまち。まわりには、お店もおうちもたくさんある大きなまちだけど、かんたんに川におりることができて、お休みの日には、たくさんの家族が水あそび、生きものさがしに来ています。

マルタウグイの産卵環境づくりの意味と目的

産卵床(たまごを産むベット)をつくらせてマルタウグイを呼ぼう!



むかしから二子玉川近くの多摩川を代表する水辺の生きものと言えば、江戸時代、おとのさまに献上したことで知られるアユと、春を告げる魚、マルタウグイ。

マルタウグイは3月のはじめごろ、東京湾から卵を産むために、二子玉川駅よりも上流付近にやってきます。川底の石がきれいで、少し流れの速い浅瀬を探しますが、早春のこのあたりの多摩川では水が少なく、また日差しが暖かくなるため、石の表面に藻が付きやすくなります。産んだ卵は、石にくっついて流されないことが大事。そのため藻や泥を取っ
てきれいにしあげる必要があるのです。そこで、二子玉川周辺の住民や多摩川好きの市民が集まって、マルタウグイが産卵しやすい環境、「産卵床」を作る活動を続けています。

マルタウグイ

おもに沿岸部から河口部の汽水域(海の水と川の水が混じっているところ)に生息。幼魚は1年ほど川ですごし、7~9cmくらいで海に降ります。50cmくらいに成長し、春先の産卵期には、川をさかのぼります。産卵期になると、オスに1本の帯状のオレンジ色の婚姻色があらわれます。寿命は10年ほど。貝類やゴカイ類、エビ類などの小動物を食べています。

みんなで産卵床を作ろう!

マルタウグイ産卵環境づくり



60年以上、多摩川と多摩川の魚を見てきた谷津田春吉さん(2019年1月逝去)に教えていただきながら作ってきました。

産卵床を作っていたのは、世田谷区鎌田2丁目地先、駒澤大学玉川校舎のあたりから入っていった多摩川の本流。ここは、浅くて、やや流れの速い「瀬」と言われるところですが、川へのアクセスがよく、みんなで石を運んだり、作業がしやすいところでした。

産卵床のつくり方

1 「カマ」を作る



大きな石で川の流に落さ(高い所と低い所)をつけるのが「カマ」です。流されたり、動いたりしないようにしっかりと作ろう!



2 産卵するところをきれいにする

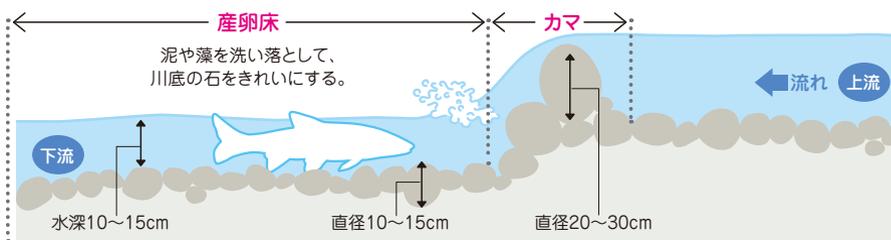


マルタウグイが産卵するカマの下流に板を立ててかき回し(温泉でみる「湯もみ」のように)泥や藻を洗いおとします。泥がまいあがらなくなるまでかき回そう!

3 しあげ



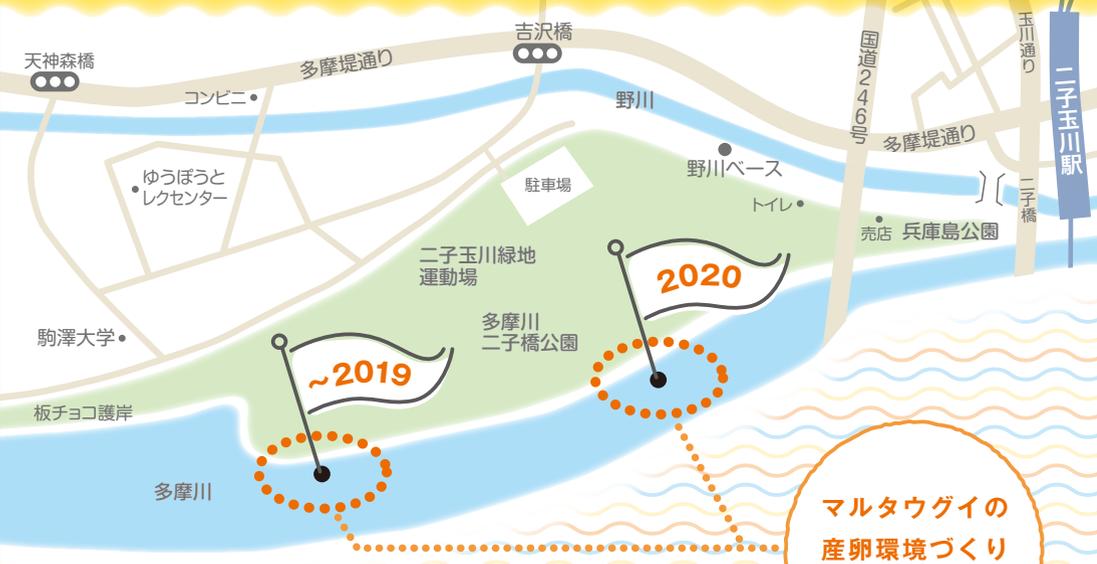
産卵床の川底が平らになるようになります。石がたりないところは、河原の石を軍手できれいに洗ってからまきます。産卵床の四隅に竹棒などの目印を立ててできあがり!



マルタウグイの産卵床づくりは、水産資源保護のため、多摩川漁業協同組合の協力のもと、実施しています。



マルタウグイが卵を産みにきたら、おどろかさないように、そっと見守ろう!!



マルタウグイの産卵環境づくり活動場所

多摩川のこと、生きものこと、知ってる人の話を聞こう!

マルタウグイの産卵環境づくり

みんなで多摩川の春を楽しもう!!



用意する道具

- ベニヤ板 (厚さ:12mm、たて:90cm、よこ:30cm)
※180cm×90cmのベニヤ板1枚で6枚分作れます。
- ジョレン ● 平スコップ ● 軍手 ● 箕やカゴ など

服そうとそう備

ウェイダー (胴長)

● 早瀬に入って作業をするため、ウェイダーを用意しましょう。用意できない人は、ひざくらいまである長ぐつでもだいじょうぶです。

● ウェイダーはころぶと危険です。腰のベルトをしっかりして、ころんでも中に水が入らないようにしましょう。



軍手

● 川底には石の他にガラスや割れた茶わん、はり金、つりばりなども落ちています。軍手は必ず着用しましょう

● 暖かい日は軍手だけでもかまいませんが、ゴム手ぶくろを着用し、その上から軍手をするとうあたたく、石をきれいにする作業が楽になります。

● コケや藻がついた軍手は汚れやにおいが取れづらくなります。使用後に捨ててもいいような古い軍手を用意しましょう。



ライフジャケット

● 川底に石に着いた藻はゆるめるとすべりやすくなっています。あやまってころんでも安全のように、ライフジャケットを着用しましょう。

たまがわの生きものたち



マルタウグイ婚姻色



ナマズ



ヌマチチブ



テナガエビ



アユ



スミウギゴリ



シマドジョウ



モクスガニ



コオニヤンマのヤゴ